

產研 同窓会通信

-2018年10月



写真提供:岩崎 裕/10数年前の産研周辺にて

産研大陸

episode.10「産研創設と忠兵衛さん」/ 福井 俊郎

ご報告

H29 年度産研同窓会総会 H29 年度最終講義・茶話会

山行日記

Mountain.10 大岩ヶ岳・百丈岩 / 權田 俊一

お知らせ

産研テクノサロンスペシャル(11 月 9 日) 第 3 回産研ホームカミングデイ&学術講演会(11 月 22 日) など

第11回産研同窓会総会を開催しました。

平成30年3月23日、産業科学研究所所長室において、第11回産研同窓会総会を開催しました。 産研同窓会活動の報告や産研の現況報告が行われました。また、新役員の選出や、今後の活動方針等の意 見交換が行われました。

同窓会総会後には、平成29年度さよなら茶話会にご参加いただきました。

【役員リスト:平成30年4月1日現在】

会 長 山口 明人 特任教授 (24 代所長)

副 会 長 菅沼 克昭 所長(所長任期中)

弘津 禎彦 名誉教授

監 事 磯山 悟朗 特任教授

仲田 昇 元事務部長

運営委員 田部 信重 元事務部長

山田 等 元技術室長

田川 精一 名誉教授

西嶋 茂宏 名誉教授

安蘇 芳雄 名誉教授

茶谷 直人 本学工学研究科教授

柏原 昭博 電気通信大学教授

鷲尾 隆 教授

誉田 義英 准教授

【平成 29 年度会計報告】

○収入 : 249, 145円

(内訳)

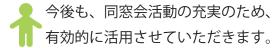
247,643円(昨年度繰越金)

15,00円(永年会費)

2円 (その他)

●支出 : 10,000円 (産研フェスタ協賛金)

☆ 来年度繰り越し : 239,145円





産研同窓会新任役員のご挨拶



この度、産研同窓会の監事を務めることになりました磯山悟朗と申します。産研 同窓会の監事がどの様な役目を果たすかも知らずにお引き受けしたため少し調べた ところ、特定非営利活動促進法で規定された役割は、理事の業務執行状況と法人の 財産状況の監査と、これらの事項に対しての意見具申、不正行為や定款に違反する 重大事実を発見した場合に社員総会の招集などの対応などと書かれていました。これは大変なことになったと思いましたが、産研同窓会の目的は、「会員相互間の親睦と阪大産研の発展に寄与すること」と会則に書かれているため、ひと安心しました。私は、弘津禎彦名誉教授の後任ということになり、大分軽量で若輩者ですが、同窓会と産研の発展に微力を尽くしたいと思います。よろしくお願い申し上げます。



産業科学研究所同窓会運営委員に就任することになった田部でございます。 私が産研を定年退職したのは平成19年3月で、その後、11年が経過し、吹田キャンパスの様子も随分と様変わりし、阪大の発展を感慨深く眺めていましたが、この度、山口会長から同窓会運営委員のお話を頂き、お世話になった産研へのせめてもの恩返しをとお引き受けした次第です。

私、平成19年4月から大阪薬科大学にお世話になって以来、主に学校法人大阪医科大学との法人合併業務に従事し、今春、任期満了により常務理事を退任しました。やれやれと思っていた処、参与として1年間週2日ほど顔を出すよう依頼され、高槻まで通っておりますが、残りの週5日は晴耕雨読の生活、時間的余裕もあるので、可能な限り、同窓会運営にご協力したいと思っておりますので同窓会の皆さまには宜しくお願い致します。

■平成 29 年度 産研での思い出~退職者の紹介~(平成30年3月31日退職)



安蘇 芳雄 ソフトナノマテリアル 研究分野 教授

2003年2月に着任して15年間産研でお世話になり、無事定年退職を迎えようとしています。理学部の学生時代に産研にも出入りしていたにも関わらず、大きく発展した産研に当初は様々な面でカルチャーショックを感じました。しかし、素晴らしい産研カルチャーにすぐに馴染めたと思います。国立大学法人化の直前で、同時期に着任した教授が多く、同期会でも多くの楽しい思い出ができました。旧材料解析センター長、ナノテクノロジーセンター長、副所長を経験させてもらい、特に、時限を撤廃して他の研究部門と同等の組織として改組された直後のナノテクセンター長を拝命した際は、かなりのプレッシャーを感じましたが、新センターのメンバーを始め皆様ので協力で何とか軌道に乗せることができたと考えています。退職後は大阪大学からも研究職からも離れますが、陰ながら産研のますますのご発展を祈念いたしております。産研教職員の皆様にはたいへんお世話になりました。厚く御礼申し上げます。



真嶋 哲朗 励起分子化学研究分野 教授

私は大学院博士後期課程の3年間と、教員としての24年間を産研で過ごしました。1977年に大学院生として当時の櫻井研究室に加わり、光化学・放射線化学の研究をはじめました。櫻井洸先生は毎日の早朝散歩、整理整頓を好まれ、身だしなみに注意され、常に余裕をもって優雅な振る舞いをされていたことが印象的です。空気を除去した溶液の光化学反応を行うため、ガラス管の洗浄から、ガラス細工、液体窒素温度での脱気封管を繰り返し行いました。夏の暑い日に一日中、ガスバーナーを使った作業を全身汗だくになりながら行いました。当時はまだ冷房がなく大変でしたが、ガラス細工には自信がつきました。1994年に助教授として当時の高椋研究室に加わりました。高椋節夫先生は非常に勉強家で常に文献を読まれていました。週末には JACS, JPC, JOC の最新号を確認され、その内容を楽しく議論させていただきました。1997年から研究室を担当し、この3月末で退職となりました。長かったようで本当にあっという間だったなと感じております。皆さん、長い間、ありがとうございました。



松本 和彦 半導体量子科学研究分野 教授

2003 年 3 月 16 日に赴任してから 15 年が経過しました。当時はまだ 15 年もあるから 3 つぐらい大きな仕事ができそうだとたかをくくっていたら、あっという間に過ぎ去ってしまいました。2011 年に東北大震災が起こるまでは産総研と 9 年間兼務をしていましたの、隔週で筑波に通っていて結構きつい生活でした。阪大に赴任当時は、電気炉がポツーンと実験室に一つという寂しい環境で最初の学生は研究に励んでくれました。当時は、カーボンナノチューブを利用した量子デバイスがメインで、バイオセンサーは脇役というところでしたが、いつの間にかバイオセンサーが主役に躍り出て、材料もグラフェンを扱うようになり、いくつかの成果も出たかなと思っています。2010 年の秋ごろから、日本版 imec を作ろうと産研のみなさんと毎月夜に集まって議論して大きな夢と希望を語っていましたが、こんなものが実現するのかと思っていましたが、みなさんの協力のお陰で様々な予算が獲得できて、だんだん現実味を帯びて来ました。" Dream is Alive"ですね。



小林 一雄 量子ビーム科学研究分野 助教

私は 1975 年 4 月に大学院学生として当時の林研究室に配属されました。丁度それにあわせたようにライナックの建設が始まり、林先生からライナックを用いた生物の実験をしなさいと言われ、最初の装置の立ち上げに加わりました。生物実験は私しかやっていませんでしたので、まわりの人たちに白い目で見られながら一人でやってきました。以来定年まで 43 年間その研究を続けることになるとは。私は化学の人間ですが、産研には当時からいろいろな分野の人がおり、装置、計測に詳しい人、有機合成の人、そして特に当時の生物の研究グループ(福井研)の人達が生物に素人の私を指導していただき、大変お世話になりました。ここまで研究を続けられたのは産研の先生方のおかげです。

あとはなんといっても産研運動会のマラソンです。私は高校、大学と陸上競技をやってきたのですが、私のマラソン熱に火をつけたのは産研のマラソン大会です。その優勝者が産研のヒーローになっているのを見て、しばらくやめていたランニングを再開し始めたのは M2 の時です、D1で優勝し、それ以来、途中中断もありましたがフルマラソンを走ることになるとは。産研は私にとって研究面にとどまらず青春そのものであったような気がします。4月からも産研にお世話になります。これからは少しでも若い人たちに恩返ししたいと思っています。





episode.10 「産研創設と忠兵衛さん」

福井 俊郎 Toshio Fukui



伊藤忠兵衛さん

堺市のはずれにあった産研のことを知る人が少なくなってきた。研究所の玄関正面に小さなロータリーがあり、その真ん中の植え込みに一つの石碑が建てられていた。この石碑は産研の吹田移転に伴って移設された。自然石でつくられた石碑には大理石の銘板がはめられていて、そこには「産業科学研究所記」が記されている。年月の経過と共に大理石が磨滅してきて、ほとんど読めなくなってきたために、数年前に新しくつくり替えられた。そこに書かれている漢文が難しいので、私は甲南高等学校の覚野吾郎教諭にお願いして読んでもらった。以下はその前半部分である。

産業科學研究所の記

國力の充實は産業發展を頼み、産業の發展は基礎科學の研鑽を俟(ま)つ。大阪財界の士、夙に見(けん=見識)を有し、茲(ここ)に曩者(さきごろ)大阪帝國大學の創立を干(もと)むるなり。理學部の新設を促進して功有り。既にして又總長楠本長三郎君と謀りて、産業科學研究所を附設せんと欲し、政府に建議す。政府之を可とす。即ち昭和十三年度大阪帝國大學の追加豫算を以て産業科學研究所を附置す。案、第七十三議會に付して之を議し、其の協賛支出計金五十二萬三千圓を得。此に於て大阪工業會並びに財界有志、胥(あ)い謀(はか)りて産業科學研究協會を組織し、以てその業を賛(たす)く。凡そ土地建築より設備研究の資費に至り、其の依助(しじょ)を多く出す。



石碑の碑文

これを読むと、「大阪財界の人たちが大阪帝国大学の創立を求めて、理学部の新設に成功した。次に楠本総長と相談して、 産業科学研究所を附設することを願い政府に建議して、政府はこれを認めた」ということである。この石碑を建てたのは産 業科学研究協会であり、自分たちの功績を強調したのだろう。私たちは長らく「産研は関西財界の有志が強く望んで、その 絶大な援助でもって創設された」と教えられてきた。

しかしながら、最近になって『伊藤忠兵衛翁回想録』を読むと、産研は確かに関西財界の絶大な援助で実現したものでは あるが、その創設をはじめに言い出したのは、むしろ当時大阪大学の総長であった楠本長三郎先生であったようである。そ の部分を引用してみよう(原文は仮名文字で書かれているが、一部改変して読みやすくした)。

「府立医専の国立移管問題に目鼻がつき応分の寄付もしたが、時あたかも、国民の科学教育とそれによる産業の発展が国家的要請であった。楠本先生はわが大阪大学はまず基礎教育に熱を入れて、広くよい先生を迎え入れたが、それを板につける道程として研究所をつくろうと言う。しかも、その頭領は眞島利行氏という理学部長で、稀にみる学者だと言われる。(中略)おもしろくないのはこちらで、非常に大きな予算を立てられて、今度もぜひ片棒をかついでくれと言われる。住友の総理事と商工会議所の会頭と私の3人で協議をした。住友の小倉正恒さんが、『忠兵衛さん、今度は君に無理を言う。いろいろのことであんたはじめお店の実情は十分に知っているが、もうここまで回復されたのだから、これこれ出してもらいたい。実は住友が出すのと同じ金額だ。銀行も喜んで賛成するようにさすから』と、当時としては予期もせぬ巨額の割当てを受けた」

時の政府は昭和 13 (1938) 年度の追加予算として、大阪帝国大学内産業科学研究所創設予算を計上、第 73 回帝国議会で成立する。創設費は当初計画の 670 余万円から 52 万 3 千円に削減され、さらに、政府支出金は敷地買収費 25 万円で、残りの 27 万 3 千円は民間支出金とされた。

産研に対する当初の構想は、理化学研究所をモデルとして、36 部門からなる総合理工学研究所を、7 階建て 4 つの鉄筋建物に収容するというもの。堺市東北部の広大な土地を建設用地とした。この土地は当時田園の真中にあったが、正門付近は地下鉄延長線の駅に予定されていた。第二次世界大戦直前の国費多端の折にもかかわらず、強力な募金活動が展開されて、400 万円(現在の 100 億円くらいに相当するか?)の資金と 21 万 5 千平方メートルの土地を確保して、第 1 期工事として約 1 千坪の木造建物(本館)が建設された。

その後にも、産研協会の基金を利用して残りの建物(研究棟など)が建築され、さらに、研究所の運営資金から人件費までにも援助の手が差し伸べられた。当時の財界の力は今では想像もつかないものであり、当初の産研はまったくそれにおぶさっていたのである。産研の創設をどちらが言い出したのかはさておき、産研の初期の発展に対する産研協会の貢献は、今後も決して忘れてはならないものである。

現在産研にある楠本先生と眞島先生の銅像は、産研の吹田移転時に産研協会から寄贈されたものであるが、その折に寄付 集めの世話をしたのも忠兵衛さんであった。ここで注目したいのは、忠兵衛さんとお二人とのつながりが、産研創設時に始 まったものではなく、それよりもずっと以前から続いていたということである。

忠兵衛さんが 19 歳のとき、たまたま条虫(寄生虫の一種)が出たので、医師からもらった強い薬を一日絶食して飲んだところ、ひどい下痢に見舞われて意識がなくなるほどに衰弱した。深夜にあわてて往診を頼まれてやって来たのが、当時府立医専の教授で大阪病院の内科第一部長をしていた楠本長三郎先生であった。はじめの医者が投薬量を間違えたのが原因であったようだが、忠兵衛さんは数ヶ月の入院でようやく回復できた。約 10 年後のこと、ひどい腎臓炎にかかったときにも、忠兵衛さんは楠本先生に助けてもらった。このようなことを通して、二人は親類以上の付合いをするようになっていたのである。

一方、忠兵衛さんが初めて眞島先生と出会ったのは、インターラーケンから登ったスイスの山上であった。東北大学から青年学徒としてドイツに留学中であった眞島先生は、大変に言葉数の少ない方であったが、二人はどこかで気が合ったのか、このときから親しい関係ができたようである。驚いたことには、以前に投薬量を間違えた医師は眞島先生の義弟であった。産研創設にまつわる、誠に不思議な縁の物語である。(2017 年 12 月 5 日記)



堺時代の産研 (本館)



堺時代の産研(研究棟)

<引用文献>

- · 伊藤忠兵衛翁回想録(昭和 49 年)伊藤忠商事株式会社発行
- ・伊藤忠兵衛翁を偲んで(昭和51年)産業科学研究協会編集発行

学 權田俊一の 山 行 日 言己

Mountain.10

「大岩ヶ岳・百丈岩」

大岩ヶ岳

孫の遥太朗は、2015年の9月に満6才になった。私もこの年頃に初登山をし、それが記憶に強く残っているので、そろそろ一緒に登山をしてもいい頃だ。9月23日(水)秋分の日に、彼らの住んでいる三田からも、私の住んでいる宝塚からも近い大岩ヶ岳を登ることにした。父親の州人も一緒である。下の地図は付近の概念図と歩行軌跡である。



Shunichi Gonda

大岩ヶ岳 歩行軌跡 黄色の線

西谷の森公園の駐車場で待ち合わせをし、丸山湿原への道の途中にある駐車場に向かった。前は工事中で駐車できなかったが、もう使えるのではないかという感じがあったからである。4、5 台とめられる駐車場にはもう 1 台がとまっていた。 左下の写真は出発前の勇姿である。



出発点の駐車場

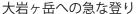


東大岩ヶ岳の登り口で

駐車場を 9 時半に出発。すぐに右折し、木立の中の道に入る。平坦に近い緩やかな登りの道だ。左には、丸山湿原から続く沢が流れている。遥太朗も元気におしゃべり。「コナラーアベマキ群集」という看板の前を通って、丸山西分岐へ。右に折れて大岩ヶ岳への道を歩く。この時は花が少なく、紅い色の萩の花だけが目立った。遥太朗お目当ての栗の実は落ちていない。「スギーヒノキ群落」の看板を過ぎると斜度はきつくなって山道らしくなる。

やがて峠のようなところに着いた。道標があり、先に進めば、大岩ヶ岳・・引き返せば丸山湿原・・の文字が見える。そばに大きな看板があり、地図がのっている。上右の写真は、看板を見る遥太朗。看板の裏側には、誰が書いたか、マジックペンで「東大岩ヶ岳 すぐ(5分)、絶景」と書いてある。遥太朗に「5分と書いてある。行こう」と誘って登り始めた。







東大岩ヶ岳頂上



登りの辛さを思い出して

この 5 分が曲者。ただの 5 分ではない。急登の 5 分である。遥太朗は両手両足を使って、四足の動物のような登り方。これでは確かに疲れる(左上の写真)。5 分より少しかかったかもしれないが、無事東大岩ヶ岳頂上に到着。10 時丁度だった。千刈貯水池の一部や羽束山も見えて、確かに絶景(上中の写真)。

頂上に座って今登ってきた道の話をしていたら、遥太朗が泣き出した。よっぽど辛かったと見える。泣いた顔を撮ろうと カメラを向けたら、両手で顔を隠した。右上の写真。涙は見せられないということか。男はつらいね。

一休みして、もとの峠に戻り、大岩ヶ岳に向かう。途中、岩山の東大岩ヶ岳が見え、「あそこに登ってきたんだぞ。すごいな」 などと励ます。

大岩ヶ岳への登りはそれほどきつくなく、ゆったりと登れた。10時 20分到着。頂上には一人の先客(高槻からとか)が



大岩ヶ岳頂上で



ここではにこやか

いて、その人に撮ってもらったのが左の写真。大岩ヶ岳の頂上では、遥太朗も余裕の笑顔。よかった一(右の写真)。大岩ヶ岳からは三田の町も一望のもとだ。遥太朗たちの家もビルの陰ながら特定できる。頂上では、お菓子などを食べたのち、丸山湿原に向かう。

日本庭園のような松の生えた場所の下部はやや急な下りだが、遥太朗は無事通過。丸山湿原への連絡路はほぼ平らな道。 遥太朗は私より元気に歩く。やがて丸山南分岐。そして丸山湿原に着いた。11 時 27 分だった。下左写真。少し歩いてベン チのところに。仲良く語る親子。遥太朗もいっぱしの語り手(下右の写真)。この時期、湿原にも花は見当たらない。6 月に 伸枝と来たときには、トキソウとアヤメの花が見られたのだが。

湿原の前のベンチには老夫婦がいて選太朗の元気さを褒めてくれた。



丸山湿原に到着



丸山湿原を前に

帰りは南分岐を経て西分岐へ。途中で先ほどの老夫婦と一緒になったが、これから東大岩ヶ岳に登るという。それだったら、西分岐を左に折れるはずだが、折れずに一緒に歩いてくる。「ここで曲がらないのですか」と聞いたら、「この先から登るといい展望台に出るんですよ」と、駐車場の直前で、踏跡だけの急な滑りやすそうな坂を登って行く。奥さんはやれやれという顔。「奥さんを大事にね」と大声をかけたが、旦那は素知らぬ顔で登っていった、奥さんが「ありがとう」と、上から笑顔を見せた。

帰りはレストラン大池で食事。遥太朗は、から揚げ定食を頼んだ。これがなかなかこない。私たちが食べ終わってもこない。ようやく出てきた食事に遥太朗は食らいついた。大人でも多いと思う大きなから揚げを数個、一人で平らげてしまった。右の写真。おそるべしこの食欲。

帰り際に「また山に行こう」と言ったら、「もういやだ」と言う返事。さて次の作戦は?



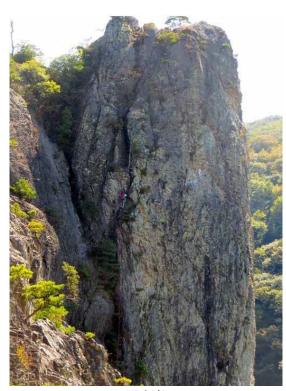
百丈岩

JR福知山線の道場駅の南に、百丈岩(ひゃくじょういわ)と呼ばれる大きな岩がある。そばには船坂川が流れ、ハイキングコースもたくさんある。百丈岩の名は、江戸時代の「摂津名所図会」に「高さ数十丈、岩上には百畳を敷けるより名とす」とあることからきているそうな。

下の写真のように、垂直な岩の壁がそそりたつことからロッククライマーに人気があり、練習場になっている。



百丈岩 歩行軌跡



百丈岩

孫の遥太朗との山行第二弾はこの百丈岩になった。もう山には行かない、とか言っていた遥太朗も父親の州人の説得が功を奏したのか、すんなりこの山行に参加した。

2015年10月17日。道場駅に9時半の待ち合わせだったが、私と妻の伸枝は車で遠回りしてしまい、かなり遅刻。州人と遥太朗は百丈岩を目指して歩き出していた。

以前は道場駅から百丈岩の方へ向かう歩行ルートがいくつかあったのだが、現在は地図に示すように新名神高速道路が建設中で、その多くは通行できなくなっている。遥太朗たちを途中で拾って地点 15 まで車で行き、そこに駐車した。

15 から地点 5 まで車が通れる平らな広い道を歩く。5 には 売店やトイレがあり、登山基地の趣だ。池があり、黒い鯉が 生き生きと泳いでいた。そこにいた岩登り組の三人は百丈岩 の登り場の方に、私達は一般ルートへ向かって地点 5 を出発、 9 時 55 分。ここから 200 米以上の尾根まで岩だらけの急坂を 一気に登る。次頁左の写真。遥太朗は頑張って 15 分で地点 6 の尾根に着いた。

地点 6 から百丈岩の頂上部までは、比較的緩やかで前とくらべれば楽な道。下界や高速道路の工事の様子を登山道から眺めながら、そう苦労せずに頂上部に着いた。10 時 26 分だった。次頁中の写真は頂上部でくつろぐ三人。この左右は断崖。伸枝がいるとこういう写真が撮れる。この場所からは前頁の百丈岩の頂上へはすぐで、細い断崖の上の道を渡っていける。州人は前に渡ったそうだが、今回は危険そうなので渡らなかった。







百丈岩の頂上部で



ロープを使って下りる遥太朗

もう少し歩こうというので、更に北東に向かって地点 8 まで行った。この先は静ヶ池などへ行く道があるが、さらに歩くとかなりの時間がかかることが予想されるので、今回はここまで。

百丈岩から少し下りた地点で、岩登り組が百丈岩を登っているのに気がついた。その様子を撮った写真が前頁のものである。写真中央の赤が登攀中の人。

百丈岩から地点 6 までの間にロープを使って下りるところがある。遥太朗にロープの使い方を教えたらすぐに覚え、下りるだけでは物足りなく、今度はロープを手繰って登り、もう一度下りる始末。右上の写真。これにはまいったね。子供は気に入ったことはすぐに覚える。

地点 6 からは、急な下りの地点 5 への道は使わず、地点 7 への道をたどった。比較的楽で 7 には 11 時 46 分到着。出発点の 15 には 11 時 55 分に事故なく無事に到着した。

昼食は、州人の妻の陽子さんと2才の璃海、5ヶ月の晴人も加わって三田の料理店で食べた。遥太朗もこの山行は楽しかったようだ。みんなよく食べた。

■大阪大学の集い in 東京の開催について

日 時:2018年12月1日(土) 15時~場 所:東京国際フォーラムホールB7

毎年師走に東京で開催している「大阪大学の集い」が、今年も開催されます。

多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

【問い合わせ】

大阪大学共創推進部渉外課卒業生係

Tel: 06-6879-7196

Email: alumni-info@ml.office.osaka-u.ac.jp

【詳細はHPをご覧下さい】

URL: https://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/event/2018/12/0101



■産研テクノサロンスペシャル「Al/IoT が拓く未来社会」を開催します

日 時:2018年11月9日(金) 13時50分~

場 所:大阪富国生命ビル7階 野村證券梅田支店ホール

大阪大学産業科学研究所と一般財団法人大阪大学産業科学研究協会は設立 80 周年を迎えるにあたり、特別講演会「産研テクノサロン・スペシャル」を開催します。今後の社会の発展を支える上で Al/loT をはじめとする科学技術の活用が不可欠となってきています。産業科学研究所では、このような状況に対応すべく、ICT(情報通信テクノロジー)分野における取組を強化してまいりました。本講演会では、「Al/loT が拓く未来社会」をテーマにとりあげ、最新の状況を俯瞰するとともに、産業科学研究所における産業界および地域に向けた貢献を目指した取り組みについて紹介し、皆様との親睦を一層深めるための交流会を開催いたします。

【問い合わせ】

大学産業科学研究所 産学連携室

TEL: 06-6879-8448 / FAX: 06-6879-8448 / air-office@sanken.osaka-u.ac.jp

【詳細はHPをご覧下さい】

URL: http://www.sanken.osaka-u.ac.jp/labs/air/



■大阪大学共創フェスティバル 2018「大阪大学とあそぼう」に出展します

日 時:2018年11月17日(土) 11時~17時

場 所:ららぽーと EXPOCITY

ららぽーと EXPOCITY 内に大阪大学のさまざまな研究・実績・資料などのブースや体験コーナーを会場内一帯で展開し、小さなお子様から大人まで、楽しみながら科学、研究について学んでいただけるイベントです。産研の研究室も出展します。お申し込み不要ですので、ぜひお気軽にお越しください♪

【問い合わせ】

大阪大学 共創推進部社学共創課 社学共創係 kyousou-syagaku-syakyou@office.osaka-u.ac.jp 【詳細は産研HPをご覧下さい】

URL: http://www.uic.osaka-u.ac.jp/kyoso/events/events_sympo.html



■「第3回産研ホームカミングデイ」&「学術講演会」を開催します

日 時:2018年11月22日(木)

ホームカミング特別講演:13 時~ 14 時 10 分 / 学術講演会:14 時 20 分~ 18 時 / 懇親会:18 時 30 分~

場 所:産業科学研究所管理棟1階講堂など

産研ホームカミングデイは、産研学術講演会のオープニングとして、産研OB・OGの方に近況、産研への想いなどをご講演頂くと同時に、OB・OGの方々が産研学術講演会へ気軽に足を運んで頂くとともに、懇親会で産研OB・OGと現役産研スタッフ・学生が交流する機会となることを目指しています。

今年のホームカミング特別講演は、溝口理一郎先生(北陸先端科学技術大学院大学サービスサイエンス研究センター 特任教授/大阪大学名誉教授)です。 また、学術講演会のテーマは、「産業に活かす基礎科学」。

ホームカミング特別講演、学術講演ともに、産研ならではの内容です。皆様のご来聴をお待ちしております。

【問い合わせ】

産業科学研究所 総務課総務係

TEL: 06-6879-8384 / sanken-soumu-soumu@office.osaka-u.ac.jp

【詳細は産研HPをご覧下さい】

URL: http://www.sanken.osaka-u.ac.jp/pb office/gakujutu/

OS-ANDYWEIE 1 18:00-16:15

STREET IN 18:00-16:16

STREET IN 18:00-16

11月22日(木曜日)

ご意見ご要望等ございましたらいつでもご連絡ください。

〒567-0047 大阪府茨木市美穂ヶ丘8-1 / TEL:06-6879-8380 / FAX:06-6879-8509 E-mail:DOUSOUKAl@sanken.osaka-u.ac.jp / URL:http://www.sanken.osaka-u.ac.jp/dousoukai/



